

奈良県指定文化財調査票

調査日	2020 年	12 月	3 日	記入者	橋詰 輝己
調査者名	石井	中西	橋詰		

文化財名	お葉つきイチヨウ				
種類	<input type="checkbox"/> 史跡	<input type="checkbox"/> 名勝	<input checked="" type="checkbox"/> 天然記念物	<input type="checkbox"/> 有形民俗文化財	<input type="checkbox"/> その他 ()
指定年月日	1977年(昭和52)3月22日				
所在地	桜井市大字南音羽832番地				
所有者 管理者	観音寺				
員数	1株				
時代区分					
樹木の場合	(樹木名) お葉つきイチヨウ			(樹齢)	
案内板の状況	有り (平成31年3月に設置したので文字もはっきりと読むことができ案内板もきれい)				
公開	見学は自由				
保存状態	<input type="checkbox"/> 非常に良い	<input checked="" type="checkbox"/> 良い	<input type="checkbox"/> 普通	<input type="checkbox"/> 悪い	<input type="checkbox"/> 非常に悪い
	補足 (調査に入ったのが12月3日ですすでに葉はすべて落ちていた)				
当面の課題	特に問題なし				
今後の課題	樹木の周りには柵が敷かれており幹まで立ち入ることができない状態である。現状維持で良い。				
その他 (由緒など)	イチヨウは中世代ジュラ紀に繁栄した種の生き残りとして、「生きた化石」とも言われる。お葉つきイチヨウはその変種のひとつで、葉の上に実をつける特徴があり、イチヨウがシダ類と種子植物との中間的な性格をもつことをよく示している。植物の進化の系統を考える上できわめて貴重な学術資料である。このお葉つきイチヨウは幹回り4.8m、高さ25mである。(案内板説明より)				
コメント	音羽観音寺は標高800mの音羽山の山中にある。地域では音羽の観音さんとして慕われている。創建は天平寛宝元年(749年)に心融法師が創建したとの記述がある。本堂の前にイチヨウの巨樹が植えられている。調査時期が12月の初旬ですすでにイチヨウの葉はすべて落葉していた。実際のお葉つきイチヨウも見つけることができなかった。樹木の姿を見る限り樹勢はいいと判断した。次回訪れるときは紅葉の時期に訪れたいと思う。				

奈良県指定文化財調査票(写真)

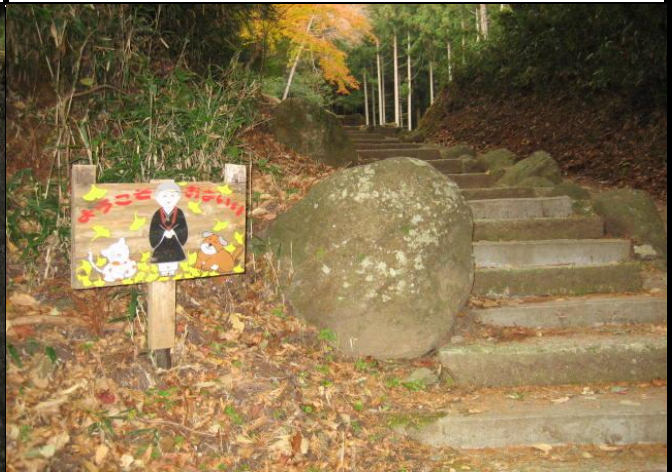
調査日	2020 年	12 月	3 日	記入者	橋詰 輝己
調査者名	石井	中西	橋詰		

文化財名	お葉つきイチョウ
------	----------

観音寺までの案内板



参道だが1キロの坂道が延々と続く



木造千手千眼十一面観音菩薩立像を祀る本堂



イチョウの葉はすべて落葉



樹木の幹回り4.8mと高さ25mの大木



お葉つきイチョウの説明板

は
けんしていてんねんきねんぶつ 県指定天然記念物 **お葉つきイチョウ**
Natural treasure Designated by Nara Prefecture: the Ginkgo biloba 'Epiphyllo'

イチョウは中生代ジュラ紀に繁栄した種の生き残りとして、「生きた化石」ともいわれる。お葉つきイチョウはその変種のひとつで、葉の上に実をつけるのが特徴である。これは化石種にもみられる特徴であり、イチョウがシダ類と種子植物との中間的な性格をもつことをよく示している。植物の進化の系統を考える上できわめて貴重な学術資料である。このお葉つきイチョウは幹周り4.8m、高さ25mである。

していねんがっぴ
指定年月日：昭和52年5月20日
平成31年3月 奈良県教育委員会